



馬鼻肺炎の発生予防対策を徹底しましょう！

三八地域で馬鼻肺炎が発生しました。県内での発生は平成22年以来7年ぶりとなります。馬鼻肺炎による流産は12月から4月にかけて発生しやすい時期となるので、以下の点に留意し、**発生予防対策の徹底**をお願いします。

予防するために

- ① 妊娠馬(特に妊娠後期)に**ストレスを与えない**ような飼養管理を心がけましょう。
- ② 妊娠馬は育成馬やあがり馬とは**隔離して飼養**しましょう。
- ③ **ワクチン接種を徹底**しましょう。
1回目 : 妊娠6~7か月
2回目 : 妊娠7~8か月
3回目以降: 1~2か月ごとの補強接種
- ④ 日頃から厩舎や器具等の**清掃・消毒**を心がけましょう。



伝染病が疑われる流産が発生したら

本病発生の可能性を想定し、速やかに次の対応をして下さい。

- ① 獣医師又は家畜保健衛生所に連絡してください。
- ② 流産した馬は**隔離**し、胎盤・羊水等に**他の馬が接触しない**ようにし、器具等とともに**速やかに消毒**してください。作業員の手指、作業靴、衣服、手袋なども充分消毒して感染の拡大防止に努めてください。